

# オーケストラ乾坤一擲

Vol.60

## 地域の皆様にとって、かけがえの無い オーケストラであるために



公益社団法人 広島交響楽協会  
広島交響楽団 常務理事  
藤岡 義久

よく、「クラシック音楽は取っ付きにくいですね」と言われます。そんな時、私は「作曲家が心血を注いだ曲をオーケストラが心を込めて演奏する『コンサートライブ』は、必ず心に響くものがありますよ。お聴きになると、きっとイメージが変わります。ぜひ広響のコンサートに足を運んでみてください。」と演奏会にお誘いすることにしています。

確かに、コンサートホールで長時間静かにシンフォニーを聴くことは辛いと思われるかもしれませんが。そこで、広響では現在プログラムノートなどで曲の内容や作曲家の経歴、あるいは作曲の背景や意図を解説し、曲の中にあるストーリーや大作作曲家自身の人生の苦悩、喜び、願い、といったものを感じて頂くことで、生演奏を目と耳と頭で楽しめるよう工夫しています。

作曲家の背景にある歴史や哲学、人生観などが分かれば、ご自身と重ね合せて身近なものとして感じることができますし、感性を磨く意味で曲そのものを楽しむことも、「脳の活性化」に役立つものです。

大作作曲家である、私の好きなベートーヴェンを例に取ってみたいと思います。彼は、生活困窮や重い病気などの苦難を乗り越え、多くの名曲を作曲しました。その集大成は「交響曲第九番」です。当時は、ヨーロッパ各地での革命勃発による動乱で、民衆に多くの犠牲者が出た時代です。ベートーヴェンは自身の苦難をこれらに重ね、しかし決して諦めることなく、未来への希望を見出そうと全身全霊でこの曲を作曲しました。

現在では、世界中で第九が演奏されており、例えばスポーツの舞台でも、1998年の長野オリンピックの開会式では、長野県民文化会館における小澤征爾指揮の演奏に合わせて、オリンピックスタジアムやニューヨーク国連本部など世界5大

陸・6か国・7か所において、連携して第九大合唱が行われました。第九「歓喜の歌」は、世界平和への願いを込めて、「時流が強く切り離れたものを越え、すべての人々は兄弟となる」と歌っています。彼の込めたメッセージが私達を深く感動させるのです。

翻って現在に目を転じますと、世界の政治経済情勢がより不透明感を増している中で、昨年5月にオバマ前米国大統領が広島を訪問し、世界平和のメッセージを発信しました。また広響平和音楽大使である世界最高峰のピアニスト、マルタ・アルゲリッチ氏も一昨年の広響「平和の夕べコンサート」で、「音楽には人を傷つける気持ちを萎えさせる力が宿っている」と、世界平和の願いを渾身の演奏に込めました。

広響も、地域の皆様にとってかけがえの無いオーケストラであるために、果すべき使命として、音楽を通して「心豊かな地域社会創り」と「世界平和と人類の協調進歩の重要性」のメッセージを強く発信して参ります。

4月1日より私共は、秋山和慶前音楽監督のご推挙のお陰で、下野竜也音楽総監督を新たに迎え、広響新時代がスタートしました。これまで広響を物心両面で支えて頂いた、会員・ファン・行政・財界・各団体・教育機関など、関係各位に衷心より厚く御礼申し上げますと共に、下野広響に何卒これまで以上のご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

なお、本誌「カレントひろしま」では7月号から新連載「オーケストラの楽器たち」がスタートします。広響の楽員が、楽器との出会いや特徴が出ている推薦曲などを紹介させていただきますので、どうぞお楽しみに。そして何よりも、広響のコンサートに多数のご来場を賜り、お楽しみ頂きますよう心より願っております。